

## 第 34 回卒業証書授与式

### はなむけのことば

深沢高等学校第 34 期生の皆さん、卒業おめでとうございます。

また、卒業生の保護者の皆様には、お子様の卒業をお祝い申し上げるとともに、これまで本校の教育活動に対しまして、御理解、御協力を賜りましたことに深く感謝を申し上げます。

さて、先日、日本人選手の大活躍で冬季オリンピックが閉幕しました。皆さんもテレビやネットで、競技後のオリンピックたちのインタビューを見たと思いますが、ほとんどの選手が多くの人からの支援に感謝するという発言をしていました。皆さんは、こうした発言に対してどのように感じたでしょうか。もちろん、こうした発言自体は素晴らしいものですし、選手たちの素直な気持ちの表れであろうと思いますが、私は選手たちが自身の功績をもっと誇ってもよいのではないかとも感じました。さらに、選手に対して謙虚で感動的な姿を求める世間の無言の圧力が、まず先に感謝の言葉を口にさせてはいないかとも思いました。

結果を残した選手であればあるほど、その過程には他者が計り知ることのできない様々な苦難があったはずです。一番讃えられるべきは、そうした苦難を乗り越えてきた選手であり、感謝の言葉以前に、選手は自らの努力をもっと誇ってもよいはずですし、我々はそれを受け入れてあげるべきだと思います。

また、どうしてその選手が多くの人に支えてもらえたのかということも容易に想像できません。支えてくれた人々が大勢いるということは、それだけその選手が競技に全身全霊を捧げていたからに違いありません。中途半端な打ち込み方では助けてあげようという気にはならないはずです。商業的にも、闘争心や将来性に欠ける選手にスポンサーがつくはずはありません。

さて、卒業生の皆さん、皆さんは、これから先、専門的になっていく学業や生きる糧を

得るための労働、子供を授かればその養育など、様々な場面に挑んでいくことでしょう。そこには多くの困難も待ち受けているはずですが。皆さんは、そうした困難に、蓄えてきた知恵を尽くして粘り強く立ち向かっていくことと思います。そういう姿を目にした周囲の人々の中からは、頼りになる支援者も現れるはずですが。そうした支援者の力も借りながら困難に立ち向かい、困難を乗り越えたときには遠慮せず自らを誇り、自分を褒め讃えてあげてください。それは、きっと次の困難に立ち向かうときのエネルギーとなるでしょう。そして、自らを讃えられたら、「ありがとう」と手を差し伸べてくれた人たちへの感謝の気持ちも吐露できたら素晴らしいと思います。

では、卒業生の皆さんの健闘をお祈りし、これで私のはなむけの言葉を結びます。